

名取市被災者支援連絡会の 活動内容について

名取市震災復興部生活再建支援課

主査 鈴木 智弥

1-① 開始までの経緯

- ・サポートセンター事業の一つとして
H24.4より実施

⇒ 支援事業の原資となっていた『社会的包摂・「絆」再生事業』実施要領にある『関係者間の総合調整を行う事業』としての位置づけ

- ・支援団体からのニーズも有
⇒ 市の被災者支援方針決めて欲しい

1-② 開始までの経緯

- ・実施する際に留意したこと
『各団体の活動発表会にしない』

⇒そのため、震災直後より被災者支援や生活再建に関する助言をいただいていた、同志社大立木教授に連絡会のスーパーバイザーを依頼。グループワークによる課題検討を行い、被災者支援に関する課題や解決方法を支援者間で共有している。

2 参集機関・団体 (敬称略)

・健康・福祉支援機関

(地域包括支援センター、訪問看護財団、みやぎ心のケアセンター など)

・生活支援・相談機関

(なとり復興支援センターひより、市サポートセンターどっと、なとり、J O C A)

・支援組織・団体

(民生委員、西本願寺VC、尚絅学院大、県SC支援事務所、みやぎれんぷく、J P F、J C N、みやぎ生協VC など)

・行政機関 (保健センター等市関係課 など)

3-① 実施目的・内容

- ・ 被災者支援を円滑に行う。

⇒ 「学習」「連携」「交流」「共有」をテーマに、課題解決に向けて話し合う。

- ・ 問題点等を共有化する。

⇒ 研修会やグループワークによる事例検討
(中高年の引きこもり、アルコール依存など)

3-② 実施目的・内容

- ・被災者支援体制や支援の方向性を話し合う。

⇒ 「市の方針を決定する」のではなく、支援者同士で考え、実行していく姿勢としている

3-③ 実施目的・内容

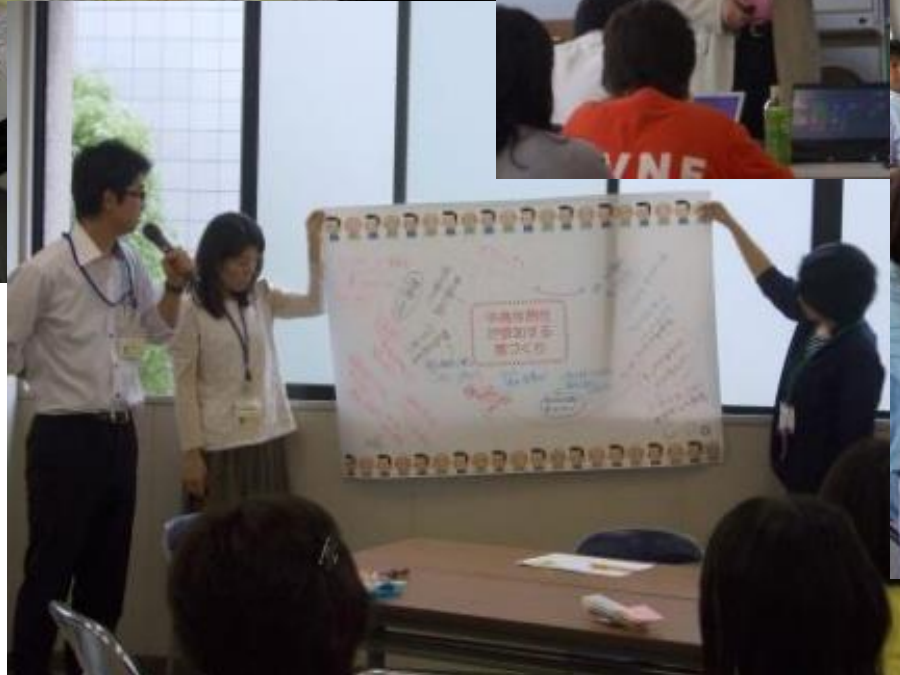
・ 支援に関する情報を共有する

⇒各団体の活動発表の場に留めることなく、各々の持っているリソースを共有し、連携の場づくりにしている。

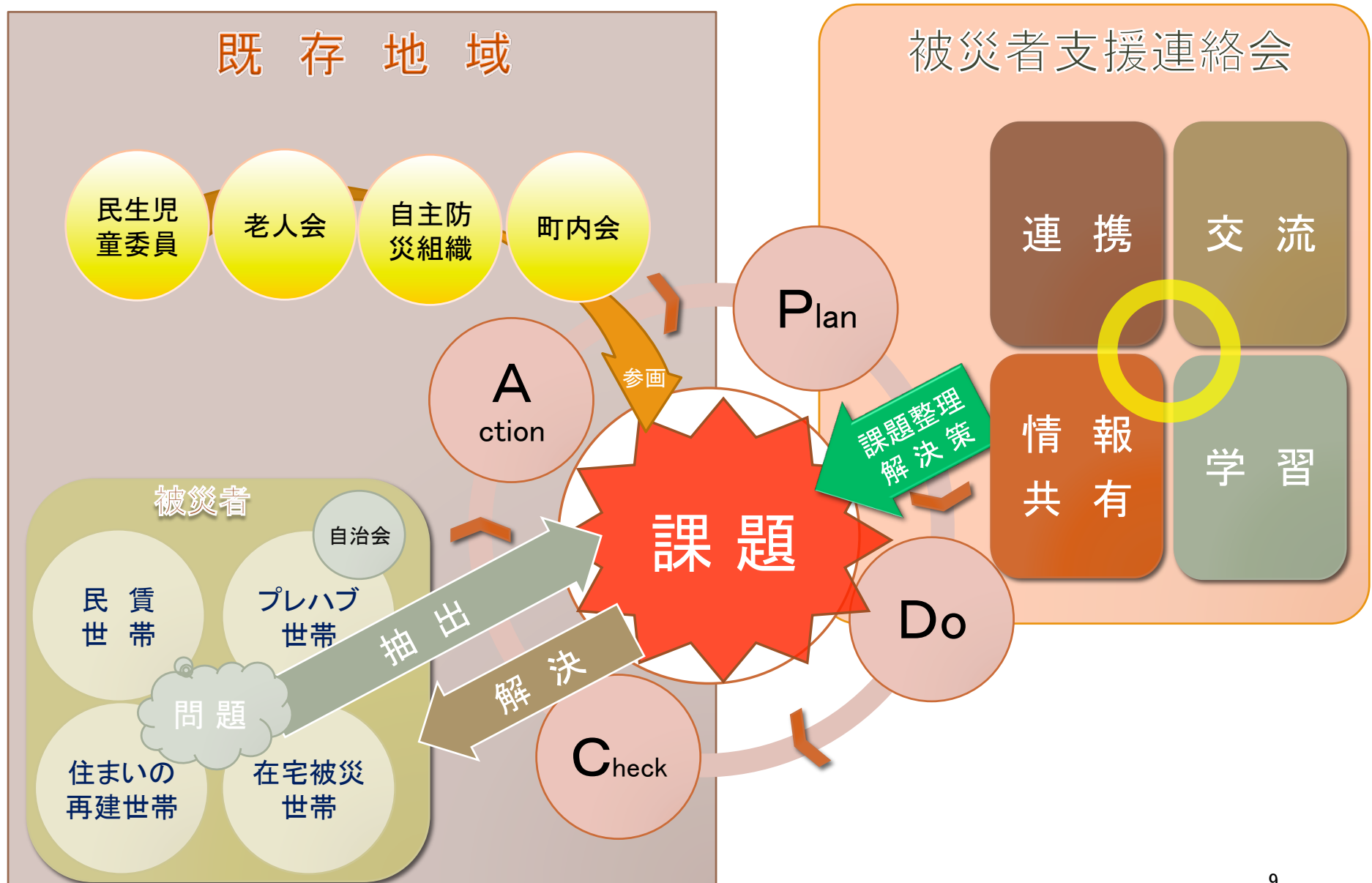
また、被災者との話題に後れを取らないよう、工事の進捗など復興に関する情報を、市から毎回報告している。

グループワーク

(&ときどき学習会)



被災者支援連絡会 相関図



4 今後の課題

・ 住まいの再建後の支援体制

- 住まいの再建≠生活再建完了
 - しかし、応急仮設住宅団地のような見守り体制を恒久的に続けることが良いのか？（財源の枯渇、被災者以外の要支援者との均衡）
- ⇒町内会、民生委員など地域の支援者により持続可能な支援体制の構築が必要